

ごんた坂

同窓会報

第3号
光陵会同窓会報

発行所
神奈川県立光陵高等学校
印刷所
中央出版印刷株

第二十九回（一九九八年度）

総会の御案内

年に一度の光陵会全会員の交流となる集いを左記の要領で開催する予定です。ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、お出かけ下さいますよう御案内致します。皆様のご参加をお待ちしております。

日時 平成10年11月14日（土）午後4～7時

会場 品川プリンスホテル（JR品川駅下車徒歩5分）

会費（予定） 学生 三、〇〇〇円

一般 七、〇〇〇円（21期以降）

この五人の式まで 一〇、〇〇〇円（20期まで）

学生の方は学生証をご持参下さい。
議程 1、新年度役員承認

2、会計承認

3、その他

お手数ですが、出欠を9月末日までに同封の要書でお知らせ下さい。欠席される場合は必ず、委任状に記名・押印をお願い申し上げます。

光陵高校の発展を願って

校長 村山 福喜

4月1日付をもちまして光陵高等学校校長に着任致しましたムラヤマ フクノブと申します。同窓会会員の皆様には日頃から多大のご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

これまで卒業生の皆様が作り上げた光陵高等学校の伝統にその重鎮さを感じ、身の引き締まる思いでいっぱいです。私は教員新任で赴任したのが横浜平沼高校でした。そこで十五年、その後、横浜翠嵐高校で十一年と横浜の地ばかりで物理を担当して参りました。そのお陰で光陵高校生の父母の皆様の中に、何人かの教え子が居られ、光陵高校が古巣のように思え大変うれしくなりました。

今、光陵高校に何が求められているか、生徒そして父母が求めているもの、また同窓会からの学校への期待など私なりに色々なものを肌で感じているつもりです。そこで校長として学校へ





座談会

「光陵の今と昔」

現在光陵高校には、光陵高校出身の先生方が五人もいらっしゃいます。そこで、この五人の先生方に集まっていたいただき、光陵のことを中心にお話ししていただきました。

編 ー今日は、お忙しいところ集まってお話をありがとうございます。光陵会の会報に、この座談会の模様をのせたいと思っております。宜しくお願いたします。ではさっそく始めさせていただきますと思います。

《卒業生ということ、光陵の教員になって》

編 ー今、光陵には五人もの光陵のOB・OGの教員がいらっしゃいます。どのような雰囲気なのでしょうか？ 浪沢先生からお願いたします。

で、特に別に意識はしませんでした。ただ、卒業生ということとで、生徒からは特別に見られていたかもしれないが、私が来た時は、恩師がほかほかの感じが残っていました。別に何があつたという訳では、ないですけれど。あと光陵卒の教員で、多いんだよね。前任校の県南校の時も三人程いたし、三人位いるんじゃないかな。

川上ー差陵に来て、二年目は私も若かったせい、半分生徒気分でしたね。生徒用の昇降口へ行きそうになったりして。恩師もまだ各教科に二、三人位いらしたと思います。

編 ー教員は高校生の時からの希望でしたか？

笠松ーウン、高三の時から決めてたかな。

浪沢ー私なんかは教員試験受かってからでした。そういえば先生方が、光陵にいらした時にお互い知っていた方なんかはいらっしゃいますか？

松山ー私は笠松さんのこと知ってましたよ。テニスで有名でしたから。テニスをいれればよかったですね。(笑)

熊谷ー私も、テニスをやっていた友人がいて、それで笠松さんのこと知っていました。

川上ー私は、ちょうど熊谷先生と入れ替わりだったんですけども、同じ部の先輩として知っていました。

《今と昔の光陵の違いや共通点は？》

編 ーそれでは次に、今現在、光陵に教員としていらっしゃる時と、それぞれ先生方が光陵に生徒としていらした時の、違いや共通点をお聞きしたいのですが、

浪沢ー全然違うね、生徒として見ていた時と、教員として見た時とは、見方が違ってくる。生徒は、責任というものがなくて、のびのびしていたような気がする。教員だと仕事として、やはり責任というものがつきまといまう。でも、学校行事における熱意は変わらないみたい。それなりに時代もへているから、細かい部分ではいろいろ変わっているけれど、そういうことに一生懸命やるっていう気概というのは変わっていない、むしろここに来て、まだこんなことやってるのかな、って驚いたくらい変わっていないですね。光陵祭、学芸祭とか、中身はもろもろ違っているけれども、ただそういうみんなが一生懸命、学校中で取り組むというのは相変わらずだなあと思いましたがね。

編 ー熊谷先生はどうですか？

熊谷ーそうですね。私は来たばかりなので、生徒一人一人はよく分からないうえ、まず第一印象が、ずいぶんかわいいな、と思って私はこんなかわいいかっただのかしらって思ったんですけども、それだけこっちはがとし

をいったんだと思うんですけど、素直さとか明るさとか、そういうところは見習っていきたくはいいですけれど、こんなにかわいいのかわいさがないです。

松山ー昔から光陵というのは従順な生徒が多いと言われて、私達の頃も職員会議でダメと言われてた事に、ハイ、としたがうの子が多いと言われていたんですけども、それは今も変わらないうえ、それはいかと思えます。あと変わらないうえ、驚いたのは、光陵に来て一番最初に、あつてビックリしたのは体操服が変わらないこと。(一同笑)ビックリしました。私達の時代でさえ古くて、こんなのも着ていないよ！、とか思っていたのにまだに着ているところがすごい。

編 ーずつとあれですか、色なんかも？

松山ーうん、そう。

編 ーイモジャっていつて？

熊谷ーイモジャですね。僕らは四人服みただけで言っていたんですけど、

松山ー私達の時代でさえ、ちゃんとラインの入ったファスナーのついたジャージを着ている学校が多くて、こんな感じの学校ないよって感じだったのになあ、二十年代位だっているのにまだ同じっていうのはスゴイですね。

編 ー笠松先生はどうですか？

笠松ーいや、僕は恩師がたっさんいだからね。生徒から見ているなあと思っていたことと、いろいろ思うよね、先生に対してとか。それから職員会議でいろいろ

いろいろ発言したり、仕事したりすると見方が全く違う。それがおもしろかったよ。でも、自分が光陵の時も光陵が好きだったし、自由だったから。市立中学で、戸塚中学だったんだけれども、けっこう規則がきびしくてね。くつ下の色とか、髪の色とかの長さとか、当時髪型とかはやってたんだけれども、県立高校いけばそうゆうことは言われなかったしね。わりと自由で。自分が生徒でいる時も、今も好きです。

川上—友人関係は変わってないのでは。お互いにお互いを尊重して。お互いにゆるゆるの今も昔も変わらない。やっぱり優秀な人が集まっているから、あの人もスゴイ、この人もスゴイって。それぞれ個性を認め合える所はいい所だなと思います。

編—授業なんかはどうですか？やっぱり違うんでしょうか、今と昔では。

松山—なんかもう先生方が趣味に走ってませんでしたか。なにか、教科書の内容をやっているとゆうよりか、かなり自分の好きな事は専門的にやっていたような。

熊谷—それが良かったんですけどね。ああ、この学問こんなにおもしろかったんだなって。うたのように自分の世界にひたっちゃって、朗読して、その後、だまっちゃっているんですよ。生徒はどうしたのかなって思っているよ。いいですね、って言ったり、黒板たいて、ここがい

いんだよ！、ってゆう授業があったりしましたね。一学期なんて世界史なんかローマまでしか終わらなくて三学期でフランス革命で終わってしまった。それで通じていたんですよ。今では許してもらえないでしょうけれど。

笠松—寺沢先生？熊谷先生、うなずく。

松山—受験なんか全然関係なくやりましたよ。

熊谷—受験をする、させるとゆう意識じゃなかったですよ。学問はこんなにおもしろいものなんだって伝えて下さって。だからいろんな教科に興味を持って。でも今は受験、受験で、私がおもしろかったと思う授業をする。そっけなくかかれちゃう。もちろん興味もってきてくれる子もいるんですよ。

沢沢—化学なんかね、実験ばっかりしていたね。選択の化学でね、五、六時間目が多かったんだって。時間内じゃ終わらなくて、七時間目までやったりして、それでも、こっちは受験で忙しいのにと、いっしょにはなかつたですよ。

熊谷—大学へ行ったら役に立つんですよ。試行錯誤ってゆうのかな。

編—今、そうゆう授業ってできなくなっているんでしょうか？

熊谷—私はやりますよ。だから、そのうち苦情がくるかも。

笠松—僕が最初光陵に着任した時は、大学のテキストの問題とか、とにかく受験と関係ない質問があったけれど、今はそうゆう質問は

ないね。昔は時間によゆうがあったのかな。

編—先生の頃もそうゆう質問があったんですか？

笠松—僕はそうゆう質問しなかったから、よくわかんないけどね。(笑)

川上—私の頃は、周りがみんなやってたから、自分も勉強しなくてはいけないというのがありました。今思えばみんなつらかったんだってわかってたんですよ。けれども、当時は、みんなどうして、どうしてって(私が)思うまに進んでいって、本当にみんなにひきずられていったっていう感じでした。今では、クラスによって、みんなできないからいいやつて安心していいですか？てゆうクラスもあって、私なんか英語は予習してないといつていけなかったとゆう感じだったけど、今は、授業で予習やりますか？て聞くところ、こうやってなかったりして。

編—すいません。

川上—私達の頃は、先生がきびしかったというより、周りがやるからやらざるを得なかったという感じでした。だから、良い意味での刺激が減ってきていると思います。

《光陵の行事で印象に残っているものは？》

編—先生方がいらっしやった時の行事の中で印象に残っているものは何かありませんか？

沢沢—昔ね、光陵祭のね、でかんしよ、が名物だったね。今は消えたけど。

編—何ですか？その、でかんしよ、というの。

沢沢—松山先生からどうぞ。やっただよ。

松山—いや、私はあれにはなかなか入れなかったです。

沢沢—入れなかった？あの、簡単に言うけど、光陵祭が終わって後夜祭の中で、もう火も消えて終わりで、だよって言う真っ暗な中で、かたを組んで踊るんですよ。

松山—あ、歌もあって。

松山—踊るなんてもんじゃないですよ。踊りくるっているの。

沢沢—そう、もう踊りくるっているの。

松山—女の子なんか、みんなもうYシャツ出ちゃってるの。

沢沢—もうグラブで全裸がみんなワイワイ踊りくるっているの。つかれて、へトへトになって、先生にもう帰れって言われるまでやってたね。

笠松—教員サイドからしたらやたらうな、あんなの。もうみんな興奮しちゃってね。立場が違うとおもしろかったけれど。

松山—もうなかった？

(川上先生に対して)



川上―私の時に消えてしまったんですよ。十四期生が一年で入った時に、十三期や上の先輩方に、光陵祭の最後に、でかんしょ、というものがあって服がドロドロになるから、きれいな服は着ないほうがいいって言われていたんですよ。それで、十四期が二年の時にはもうすでになかったんですよ。だから、あれが最後の、でかんしょ、だったと思うんですけども。だから、私は、でかんしょ、の歌なんかは知らないんですよ。でも先輩から足を上げて、ラインダンスのよなものをなんだったということだけは聞いていたんです。

編―では、今の後夜祭は、おとなしすぎるくらいなんですか？

浪沢―そうですね。昔は全校残っていたからね。

笠松―バンドがメインだしね。今のは、(昔は)ファイヤーガールがあった、で、フォークダンスがあった、で、バンドが始まったのは私の時からかもしれない。最初はのどじまんだった。

編―フォークダンスも最近はやっていませんよ。ここ2年位は。

浪沢―そうですね。あれは変わったね。昔はフォークダンスは楽しめたよ。

笠松―フォークダンスはやっぱりね。胸、ドキドキ。(一同笑)最初は輪が小さいんだけど、だんだん大きくなってね。

編―最近の後夜祭は、予備校の人だて出ない人が多いですね。

笠松―昔は予備校なんてこの辺になかったよ。

松山―舞台も代ゼミも河合も東京に行かなきゃなかった。

浪沢―学校が荒び場で、学校しかなかったしね。

《最後に光陵・光陵生へ》

編―それでは最後に光陵や光陵生にメッセージをお願いします。

松山―やっぱり光陵は変わらないでほしいと思う。光陵に来ると、正門でタイムマシーンを通ってきただよな感じがするんだけれども、生徒も教員もどんだんかわるんだけれど、だから、この先どんだん変わっていったらうのかなんていう不安はあるんだけれども、でも、この先もずっと過去の世界でいてほしいなっていう思いがあるんだけれども、(昔は)僕も同じだな。高校生らしいというとかもいらないけれども、何か昔の高校生というイメージがあるね。自分達が学生時代にムダだと思われる事を、行事とか部活とか一生懸命やってたんだけれども、そういうところは、けっして今でも保たれてるから、このまま行ってほしいなあと。

浪沢―僕は、特に生徒にこうなってほしいとかはあまり考えたことはないね。もう、それぞれ自分で考えて下さいって。逆に、こっちがこうなってほしいと思った通りになってしまったら、それはそれでこわいしね。

編―松山先生や笠松先生とは正反対に聞こえるかもしれないけれど、学校の主役は生徒なんだなあとしみじみ思ったことが教員になって戻ってきた時にあるんですよ。一年たてば生徒も入れ替わるから、主役のメンバーも変わっていくわけで、主役が変わればどんだん雰囲気も変わるし、だから、周りや学校がこうだからというのではなく、自分達を大切にしていてもらいたいなと思う。そうすれば、学校全体にも、良いことになっていくんじゃないかな。あと、大学に入ってからとか、社会人になってからでも「光陵卒業です。」という人に出会ったりするんですよ。そうすると意識がなくてもある種のなつかしさというものがあって、たとえば、年代がズレても、同じ光陵という場所を過ごしたという、共有したという、何かしら安心できるようなものを感じるんですよ。だから、私もOGですけど、これからもどんだんみなさんOG・OBという仲間になっていくわけじゃないですか。そういう時に光陵時代を共有したっていう、共有しあえたっていう事実があるというのには素晴らしいことじゃないかって思います。

浪沢―素晴らしい、しめの言葉ですね。それでは、今日はお忙しいところを本当にどうもありがとうございます。

川上―松山先生や笠松先生とは正反対に聞こえるかもしれないけれど、学校の主役は生徒なんだなあとしみじみ思ったことが教員になって戻ってきた時にあるんですよ。一年たてば生徒も入れ替わるから、主役のメンバーも変わっていくわけで、主役が変わればどんだん雰囲気も変わるし、だから、周りや学校がこうだからというのではなく、自分達を大切にしていてもらいたいなと思う。そうすれば、学校全体にも、良いことになっていくんじゃないかな。あと、大学に入ってからとか、社会人になってからでも「光陵卒業です。」という人に出会ったりするんですよ。そうすると意識がなくてもある種のなつかしさというものがあって、たとえば、年代がズレても、同じ光陵という場所を過ごしたという、共有したという、何かしら安心できるようなものを感じるんですよ。だから、私もOGですけど、これからもどんだんみなさんOG・OBという仲間になっていくわけじゃないですか。そういう時に光陵時代を共有したっていう、共有しあえたっていう事実があるというのには素晴らしいことじゃないかって思います。

編―素晴らしい、しめの言葉ですね。それでは、今日はお忙しいところを本当にどうもありがとうございます。

浪沢―素晴らしい、しめの言葉ですね。それでは、今日はお忙しいところを本当にどうもありがとうございます。

編―素晴らしい、しめの言葉ですね。それでは、今日はお忙しいところを本当にどうもありがとうございます。

浪沢―素晴らしい、しめの言葉ですね。それでは、今日はお忙しいところを本当にどうもありがとうございます。

編―素晴らしい、しめの言葉ですね。それでは、今日はお忙しいところを本当にどうもありがとうございます。

先生方にはお忙しいところをお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。この他にも、たくさんさんの貴重なお話をさせていただいたのですが、紙面の都合上、省略させていただきました。なお、能谷先生は都合で途中にお帰りになされました。

(出席者)

- 浪沢 新一 先生 (六期生 六年目・地歴科)
- 松山 千秋 先生 (七期生 三年目・数学科)
- 笠松 由彦 先生 (九期生 十三年目・数学科)
- 能谷 郁子 先生 (十一期生 一年目・理科)
- 川上 雅子 先生 (十四期生 八年目・英語科)



個性が発揮できているか？

今の生活において個性が発揮できていますか？

やりたいことができる場がありますか？

無個性・画一化された世の中、と言う風潮の中、光陵高校の生徒の自主性や個性を尊重する、と言う校風の下で高校生活を送った卒業生、そして

高校生が現在どのように個性、自主性を発揮しているのか、また何か工夫していることがあるのかをアンケートで聞いてみました。一部の光陵会会員の

方々に協力していただき、このような結果を得ることができました。

四十代

*編集という仕事には自分の個性、人間性のすべてが表れ、またそれを表現することが本来の仕事であると考えている。そのためにはちょっとした工夫や技術が必要であり、工夫は自己の内部に存在していると思う。現在、企業の車庫のひとつではない自分を感ずることができている。

(六期 編集者)

*正しいと思えることを実行し、逆境にあってもくじけず投げやりにならないという姿勢を仕事や人間関係の中で生かしている。

(七期 ホテル業)

*光陵で意識した自分の個性が大学、社会人でも通用している。人と出会い、長くつき合う中で人の話を聞くことが新しいことを知る喜びと思えるようになった。

(二期 会社員)

*教員という職業は弊害もあるが、かなり教員のやり方が尊重されている。様々な考え、価値観を持った人間が生徒に切磋琢磨するのを望み、自分

は生徒への情報提供をはじめとして多くの機会を与えていくよう気を配っている。光陵高校の校風に関しては生徒の個性を尊重しつつ、さらに付

加価値を付けていく必要があるのではないだろうか。

(八期 県立高校教諭)

*教員という仕事に向いているとは思われないが授業をするときも、HRの運営も自分の個性でやるしかない。

(七期 県立高校教諭)

*仕事において自分が得意な面をできるだけ発揮できるように心がけている。自分と他人とは違いがあることを認識しつつ他人に接することは他人の意思を尊重するとともに自分を大切にすることにつながると考えている。

(四期 通産省勤務)

*会社の一部門の長として自分の意志で部の運営を行っている。コンピュータの技術の進歩にエンジニアとしてなかなかついていけない所もあるが、回でもつめ込むというのではなくポイントをつかんで新しい技術に

迫りたい。

(五期 会社員)

*子供の頃からパイロットという夢を実現できて幸運だった。個性とは何なのかということはよく分からないが、あるとすれば「これはこうある

べきだ」というのがそれなのだと思

う。

(六期 パイロット)

*地域活動(ボランティア)や会社経営、家族関係の中で個性を発揮している。何をすることもまず大切なのは好きになることだと思う。好きになっ

て夢中に鳴子とを最優先している。

(九期 製服店経営)

*主婦業に不満があるわけではないが、時々、大学で勉強したことを生かせる職業に就きたかったと思うことがある。

(十期 主婦)

*個人のキャラクターや能力がそのまま評価につながる職業に就いている。常に新しいことを考え、工夫している。

(十七期生 塾講師)

二十代

*私生活や趣味の面では、自分が意図しなくても個性が発揮されている。自分と相手は違うという事を認識し、自分に素直に行動すれば、それが個性となって表れるのだろう。

(二十五期 会社員)

*何か新しいことに興味を持ち、チャレンジすることが好きだったので、それを就職に生かした。物事を様々な角度から考え、人と違う発想を持つようにしている。

(二十六期 医療事務)

*大学生活では、あまり目立ちたくな

いので、個性を発揮することはな

しかし、飲み会や大学以外の親しい

友人と会う時などは自分らしさを

出している。

(二十五期 大学院生)

*特に意識はしていないが、塾講師というのは、授業などにおいて、個性を発揮しやすい職業であると思う。

(二十三期 塾講師)

*仕事をやり遂げるまでは、残業、休日出動も厭わない。この真面目さは高校時代に身につけたものではないだろうか。

(二十二期 公務員)

十代

*自分の心がけ次第である程度、やりたいことができるような環境がある。様々なことに目を向け、努力を惜しまず、また、チャンスを見逃さないように心掛けている。

(三十一期 高校生)

*部活や友人関係など、学校生活において個性を発揮している。視野を狭めず、興味を持ったら色々な面で取り組み、自分が本当に個性を出せるものを探している。

(三十一期 高校生)

*生徒会や部活など、自分達の手で楽しみなが運営していく。二年になっ

てからはそのような場から迫り出さ

れ興味で少々さびしい。受験勉強に

おいては個性を発揮できないだろう。

(三十一期 高校生)

*絵を習いに行っている。服のデザ

インをして、これから作る予定である。

(三十一期 高校生)

個性を發揮しているかどうかは分からないが、やりたいことができる場はある。

(三十二期 高校生)
*高校時代は部活や行事において個性を十分に發揮できていたが浪人生となった今、何かやりたいことがあっても、當に受験のことがきになり、思い切りできない。

(三十期 浪人生)

この記事を書くこと決めた当初、私たちは学生時代よりも社会に出てからの方が、自由が制限されてしまうと思っていました。しかし、意外にどの年代の方も自分のいる環境の中で工夫し、個性を發揮しているようです。様々な環境において制限は必ずあるものです。総会では一期から三十期までの色々な環境で活躍している人達との交流ができます。その交流の中で、多くの個性と触れ合い、個性を發揮する新たな方法、工夫を見つけてみてはいかがでしょう。ぜひ、総会に参加してみてください。

アンケートに御協力してください。皆様、お忙しい中本当にありがとうございました。

権太坂の歴史

進学路。皆さんはまだ覚えていますか。道順や交通手段が違えばその思い出もさまざま。当時は毎日何気なく通っていた道が、今では懐かしく思えることでしょうか。

そんな通学路のうち、光陵生ならば避けては通れない道、権太坂があります。校門の前の坂、旧東海道であることは有名ですが、実は数多くのエピソードが存在し、歴史的重要性の高い地域であることは意外にも知られていません。

現在の権太坂はきれいに舗装され、緩やかな勾配が長く続きます。しかし、昭和三十年の宅地開発がされる前までは非常に険しい地形でした。

江戸時代、ある一人の旅人がここを通りかかったとき、その坂のあまりの険しさに側で畑仕事をしている老人に坂の名を尋ねたところ、この老人、耳が遠かったために、自分の名を聞かれたと思ひ、「権太」と答えたのがこの坂の名の由来であります。このことは有名ですね。これより前までは「一番坂」と呼ばれていたそうです。

権太坂(一番坂)は厳密に言うると、坂を下った元町から光陵高校の辺りまでで、かつての道幅は約八メートル、長く折れ曲がった坂道、高低差はなんと三十一・四メートルもあったといわれています。そのさらに上には権太坂ほどではないにしても、二番坂というこれもまた険しい坂が続き、頂上から

は江戸の方向に沖奈川の海が見えたといえますから驚きます。まさに、その高さ、険しさは今の比にはなりません。権太坂から境木までは人家は一切もなく、松の木が両側に生い茂る寂しいところでした。長旅に加え、現在のように食料事情も豊かではありませんでしたから、坂の途中、行き倒れる人や馬もいたそうです。そういった人々が投げ込まれた穴が坂を挟んで光陵高校の反対側にありました。現在、境木中学校の側に権太坂投げ込み塚が建てられ供養されています。

権太坂は、東海道では箱根に次ぐ難所として、当時の旅人を苦しめました。権太坂を上って、戸塚方面に歩いて行くと、境木地蔵があります。この辺りには、境木と呼ばれ、その地名のおこりは、ちょうど武蔵(保土ヶ谷側)と相模(戸塚側)の国境に、大きな「けやき」の木があったためと言われます。境木地蔵が作られたのは、台座に彫られた年号から今から三四〇年前、一六五九年(萬治二年)と分かっています。これは権太坂が作られたのと時を同じくします。

昔からお地蔵様のおかげで多く参拝者が訪れています。また、地形的にもここは保土ヶ谷方面には権太坂や二番坂、戸塚方面にはやきもち坂や品濃坂と丘の上にあたりましたから、旅人の休息の場所としても栄えました。皆さんが日々何気なく通った光陵高校への道。それは、かつての旅人が息を切らして上った辛く険しい道でした。しかし同時に、江戸を立つ者には長旅を告げる最初の難所として、江戸を指す者には旅の終わりを告げる最後の難所として、決意や喜びなど多くの人の思いが詰まった、そんな道なのです。

〈名簿発行について〉

当初、名簿発行予定を平成十年二月と予定しておりましたが、諸般の事情により、平成十一年二月発行に変更させていただきます。御迷惑をおかけしまして、大変申し訳ございませんが、何卒、ご了承下さいませ。

既に名簿の申込や調査ハガキを返信いただいている皆様にはこの場をかりてお礼申し上げます。

また、最近「光陵会」を名乗り、名簿について問い合わせたり、また、各種DM、勧誘が多発しています。光陵会としましては、名簿データの管理には万全を期しておりますが、名簿の取扱いにはくれぐれも御注意下さいませ。ようお願い申し上げます。

尚 名簿に関するお問い合わせは、中央出版印刷社内名簿編集事務局迄

フリーダイヤル
0120-1064-1150

会計報告

〈光陵会会計 報告〉

～1996年度決算～

(収入の部)

入会金	1,408,500
会費	1,408,500
同窓会会費	256,000
雑収入	59,365
前年度繰越金	3,002,686
合計	6,135,060

(支出の部)

通信費	955,320
印刷費	282,909
事務費	159,502
運営費	388,376
交通費	48,860
同窓会費	399,420
合計	2,234,387

(収支差引金額) 3,900,673

～1997年度 予算案～

(収入の部)

入会費	1,600,000
会費	1,600,000
同窓会会費	250,000
雑収入	50,000
前年度繰越金	3,900,673
合計	7,400,673

(支出の部)

通信費	1,000,000
印刷費	300,000
事務費	200,000
運営費	450,000
交通費	50,000
同窓会費	400,000
合計	2,400,000

(収支差引金額) 5,000,673

進路状況

〈国立大学〉

学校名	総数		現役		平成9年	平成8年
	合格	進学	合格	進学		
千葉	3	3	2	2	6	5
筑波	4	4	3	3	3	2
電気通信	2	1	2	1	3	1
東京	3	3			6	8
東京学芸	3	3	3	3		1
東京工業	8	8	3	3	8	13
東京農工	4	3	1	1	4	1
東北	3	3	1	1	7	4
名古屋	3	3	3	3	1	1
新潟	1	1	1	1	3	
横浜国立	8	7	5	4	9	21

〈公立大学〉

学校名	総数		現役		平成9年	平成8年
	合格	進学	合格	進学		
横浜市立	11	8	10	7	11	9

〈私立大学〉

学校名	総数		現役		平成9年	平成8年
	合格	進学	合格	進学		
青山学院	40	10	25	5	34	38
学習院	12	5	7	3	21	21
神奈川	29	2	16	1	20	43
慶應義塾	21	13	10	8	35	44
芝浦工業	5	1	2	1	11	8
上智	13	5	6	3	13	13
成城	16	8	8	4	9	7
専修	14	2	6		12	9
中央	46	13	29	9	18	57
東海	15	3	9	2	14	15
東京理科	38	15	22	7	37	49
日本	31	11	11	3	26	25
日本女子	14	2	9	2	15	15
フェリス女学院	4	1	3	1	10	6
法政	35	12	20	8	25	35
武蔵工業	12	1	5		12	10
明治	75	25	35	13	50	46
明治学院	33	8	21	6	25	42
立教	24	9	13	6	27	29
早稲田	41	23	16	11	52	70

〈短期大学〉

学校名	総数		現役		平成9年	平成8年
	合格	進学	合格	進学		
青山学院女子	5	1	5	1	2	4

平成10年度異動

【転出】

校名	国語	数学	理科	事務	司書
田村	吉澤	野島	岩瀨	櫻井	中垣
知和	俊博	保志	美津子	弘之	佐保里
和子	博子	明子	立野	川崎	平沼
和子	博子	明子	立野	川崎	平沼

青木 律子 神奈川工業高校へ
伊藤 弘之 立野高校へ
野村 弘之 立野高校へ
小高 美津子 立野高校へ
中垣 美津子 立野高校へ
櫻井 保志 立野高校へ
岩瀨 保志 立野高校へ
野島 保志 立野高校へ
吉澤 俊博 立野高校へ
吉澤 俊博 立野高校へ

【退職】

校名	英語	数学	理科	事務	司書
原	加藤	関根	栗林	前田	熊谷
和子	和子	和子	和子	和子	和子
和子	和子	和子	和子	和子	和子

栗原 栗原高校より
関根 栗原高校より
栗林 栗原高校より
前田 栗原高校より
熊谷 栗原高校より
熊谷 栗原高校より
熊谷 栗原高校より
熊谷 栗原高校より
熊谷 栗原高校より
熊谷 栗原高校より

部活動

ワンダーフォーゲル部

光陵高校ワンダーフォーゲル部はその名の通り山登りをする部活です。去年は、あの白馬に登ってきました。天候不順で途中で撤退ルート行きもしましたが、オリンピックで使用したラージビルを見たりもしました。普段は主に丹沢に登っています。登っているときは、辛くて大変なのですが、登り終わったときは、とても素晴らしい光景を目にすることが出来ます。山で知らない人との交流も楽しみの一つです。皆さんも、時間があれば山に登ってみてはいかがでしょうか？

陸上競技部

九十八年度の陸上部はブレイヤー二十二人、マネージャー六人という大所帯で「みんな仲良く、かつ真剣に」をモットーに各自の目標に向かって日々努力を重ねています。五年前に顧問だった内田先生が転任されたからは部員達の自主的な運営で乗り切っているのですが、その分年々一人一人の意識の向上が見られ、今年のインターハイ地区予選では男女の400m、男子3000m障害、男子4×100mリレー、男子4×400mリレーで県大会に出場しました。また昨秋には県県に三年ぶりに男女ダブル出場するという快挙を成し遂げました。これからもチームワークの良さを強み部活を目指していきますので、陸上競技部をよろしくお願ひします。

卓球部

今年度から新入生が七クラスと一クラス減少したため新入部員が思うように集まらず、三年生五人、二年生四人、一年生三人の計十二人ととても少ない人数で卓球に燃えています。しかし人数は少ないのですがレベルは低くなく昨年度はシングルス、ダブルスともに数人、数チームが県大会へ出場したという経歴があります。卓球部OBの皆さん、今後の卓球部の活躍をご期待下さい。

あとがき

今年は活発な新役員が多く集い、編集も楽にすみました。協力して下さいました。さんどうもありがとうございました。

編集スタッフ

五 真	松 米	鳥 二	森 二	福 二	杉 二
味 野	原 原	越 越	重 重	田 田	崎 崎
司 野	浦 原	九 九	良 良	典 典	麻 麻
帆 野	圭 圭	期 期	子 子	子 子	里 里
橋 小	武 神	武 武	池 池	福 福	福 福
川 川	井 谷	藤 藤	正 正	岡 岡	岡 岡
加 千	井 井	壮 壮	司 司	督 督	督 督
奈 千	井 井	輝 輝	雅 雅	泰 泰	泰 泰
子 子	和 和	輝 輝	臣 臣	臣 臣	臣 臣
	憲 憲				